



## 社会科における地域素材の教材化

大館市立城西小学校 教諭 佐藤 健

### 1 はじめに

社会科の学習や総合的な学習の時間を進める上で地域素材はよく取り入れられている。また、子どもたちの学習に有効なのではと思われる地域素材が大館市にはたくさんある。

しかし、最も重視すべきは小学校学習指導要領解説に記載されている目標である。従って、その地域素材をどのように扱えば、学習の目標を達成することができるのか、ということに関してはしっかりと吟味されなければならない。

そこで本校では、その目標を達成するために、4年生の単元「きょう土をひらく」において、学区内を流れる米代川に架かる「田中橋」と、明治時代に田中橋を作った根下戸地区の先人「田中藤治氏」を地域素材として考え、学習活動を行った。

### 2 単元の指導計画（10時間扱い）

単元名 きょう土をひらく ～田中橋のひみつをさぐる～

#### (1) つかむ

- ① 大館市内にある「川に架かる橋」の写真を見て、知っていることや気付いたことを発表し合う。
- ② 田中橋を見学し、橋や付近の様子についてまとめる。
- ③ 田中藤治氏の生涯を年表で確認する。

#### (2) 調べる

- ④ 学習問題に即して、田中藤治氏が橋をつくる願いをなぜ県庁に出したのかを調べ、話し合う。
- ⑤ 橋を架けるための工事の実際の様子を調べ、発表し合う。
- ⑥ 田中藤治氏の生涯や人柄について話を聞き、感想を加えて発表し合う。

#### (3) 深める・まとめる

- ⑦⑧⑨ これまでに学習した事をまとめた新聞をつくり、発表会を行う。
- ⑩ 「根下戸地区かわまちづくり」について、資料をもとにして調べる。

### 3 実際の活動の様子

田中藤治氏のキャッチ  
フレーズを作り、交流する



ゲストティーチャーから  
アドバイスをいただく



子どもが  
作成した  
田中藤治新聞



「根下戸地区かわまちづくり」について話し合う

### 4 地域素材を取り入れる時のポイント

- ・ 博物館、公民館、町内会館、その事柄に詳しい方、先人と関わりのある方、などに出かけてたくさんの資料を用意する。
- ・ 子どもたちに有効な事柄を、子どもたちに分かりやすい言葉で提示できるように、資料を作り直す。
- ・ 地域素材について詳しい方々と子どもたちが関わり合う場を設定する。

### 5 成果と課題

- 地域素材を扱ったことで、先人の働きについて、より詳しく学ぶことができた。
- 地域社会に対する誇りと愛情を育てるためのきっかけとなるように単元計画を立てることができた。
- △ 教科書に記載されている「学び方」を確実に扱わなければならない。
- △ 地域素材の共有化を図らなければならない。

### 6 終わりに

現在、大館市では「大館ふるさとキャリア教育」が強く推進されている。大館の過去や現在に触れ、大館のよさを確認し、大館の未来を担う人材を一人でも多く育てていくためにも、地域素材の教材化は意義のあることと考える。これからも多くの方々からの協力を得ながら、大館についての見識を広め、子どもたちに伝えていきたい。